

木材利用 新時代へ

日本の人工林の半数以上が主伐期を迎え、資源を有効利用することが必要となっています。

木材利用の大きな割合を占める建築分野では、公共建築物等木材利用促進法が施行され、木造建築の新たな可能性が模索される中、直交集成板（CLT）の開発に期待が寄せられています。また、中層建築物への木材利用に向け、木質耐火構造部材の開発も進められています。

木質バイオマスの利用に目を転じると、バイオマス発電のみならずセルロースナノファイバーなど新たな化学原料としての利用にも近年、めざましい発展が見られます。

国産材の利用が森林整備の促進や地球温暖化防止に貢献するとの視点から、一定規模以上の建物の建設には一定量以上の国産材の使用を求める「みなとモデル」のような自治体レベルでのユニークな取組みも始まっています。さらに、環境への影響負荷を見える化し、他材料との差別化を図るため、ライフサイクルアセスメントの観点から木材利用をとらえる試みも進められています。

本講演会では、最先端の利用技術を紹介するとともに、四国の木材流通の現状も踏まえ、これからの木材利用についてご参加の皆様とともに論議を深めたいと思います。

平成29年
11月 **22** (水)
日
13:00~16:50
受付開始
12:30

入場無料

事前申し込み不要

定員
100名
先着順

開催会場:高知会館「飛鳥」

高知市本町5-6-42
TEL:088-823-7123

国立研究開発法人森林研究・整備機構



森林総合研究所

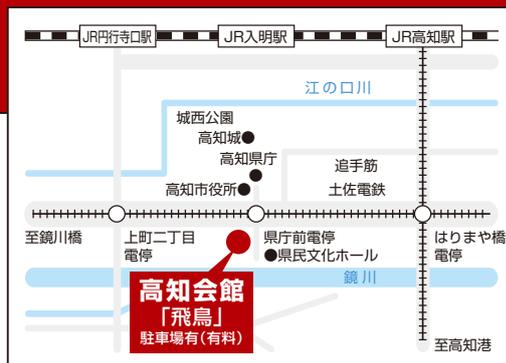
四国支所 地域連携推進室
〒780-8077 高知市朝倉西町 2-915

TEL:088-844-1121(代) FAX:088-844-1130

E-Mail koho-ffpri-skk@gp.affrc.go.jp URL https://www.affrc.go.jp/skk/

主催:国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所四国支所

後援:四国森林管理局、高知県、高知県森林組合連合会、高知新聞社、RKC高知放送局、NHK高知放送局、KUTVテレビ高知、KSSさんさんテレビ



主催者あいさつ	(13:00)	原田 寿郎 (森林総合研究所 四国支所長)
基調講演	(13:05)	<p>「木材利用の意義と展望 ～魅力的な技術と環境影響の視点から～」</p> <p>服部 順昭 (東京農工大学 名誉教授)</p> <p>環境に優しいとされる木材は、様々な政策の後押しもあって、研究開発やその実装、環境影響評価が進んでいる。その中から、木材利用の意義を述べた上で、演者の視点で世に役立ちそうと判断した魅力的な技術と開発材料(2種類のWPC、熱処理木材、直交集成板(CLT)、耐火集成材、CNF、ナノカーボン)を概説し、環境への優しさを定量評価する手法(LCA)とそのオフィスビルを対象とした評価事例を述べる。さらに、産地と消費地を結ぶユニークな国産材利用推進制度も紹介する。</p>
講演	(13:45)	<p>「わが国におけるCLTの現状と今後の可能性」</p> <p>宮 武 敦 (森林総合研究所複合材料研究領域 チーム長)</p> <p>木造建築の新たな可能性を拓げるものとして期待が寄せられているCLTについて、我が国におけるこれまでの製造技術や性能評価を中心とした研究開発の概要を紹介する。これらの成果を受けて法的な環境が整備された中で、今後CLTが期待されている役割を果たすためには、地域材を用いた安定供給体制を構築する必要がある。そのための方向性や課題について、同じひき板を原料とする集成材を例にして考えたい。</p>
	(14:10)	<p>「中層木造の建築を可能とする木質耐火構造の技術開発」</p> <p>原田 寿郎 (森林総合研究所 四国支所長)</p> <p>建築基準法の改正により木質構造材料を耐火建築物に使用することが可能となり、また、公共建築物等木材利用促進法の施行ともあいまって、建築物に木材を構造材料として利用する事例が多く見られるようになった。木質構造材料を用いた1時間耐火構造の建物は3000棟を超えて、もはや常識、2時間耐火構造の開発も大いに進展して、中層建築物の建設も現実味を帯びてきた。講演では、実例を交え、木質耐火構造の技術開発の現状を紹介する。</p>
	(14:25)	<p>「森林総合研究所が進めるバイオマス利用研究」</p> <p>木口 実 (森林総合研究所 九州支所長)</p> <p>我が国の木材供給量を上回る量が発生している林地残材や木質建設廃材等の木質バイオマスを有効利用することが求められている。木質バイオマスを利用するためには、川上の森林・林業と川下の利用技術との一貫した研究体制が必要であり、森林総合研究所が進めるバイオマス利用研究を紹介する。供給側では、バイオマス供給量推計システム、バイオマス搬出技術、ヤナギの超短伐期施業技術等、利用側ではエネルギー利用技術(トレファクション燃料、バイオマス発電採算性評価ツール、直接メタン発酵技術等)とマテリアル利用技術(セルロースナノファイバー、改質リグニン、抽出成分利用等)の研究成果を紹介する。</p>
	(14:55)	<p>「四国の木材流通の現状」</p> <p>志 賀 薫 (森林総合研究所四国支所流域森林保全研究グループ 主任研究員)</p> <p>戦後の拡大造林によって造成された人工林資源は収穫期を迎えており、国や地方自治体では、木材利用促進のための様々な取り組みがなされ、CLT、木質バイオマスの利用といった、新たな木材需要が創出されている。四国においても、大型木材加工工場、木質バイオマス発電所の整備が進み、木材需要が拡大している。このような流れを受け、木材の生産・流通にどのような変化が生じているのか、統計資料と聞き取り調査の結果から報告する。</p>
	休憩 (15:20)	
パネルディスカッション	(15:30)	<p>コーディネーター 原田 寿郎 (森林総合研究所 四国支所長)</p> <p>パネリスト 井上 誠一郎 (宇和国産材加工協同組合 代表理事) 乃一 広志 (高知県林業振興・環境部木材産業振興課 チーフ) 山中 秀直 (高知県立森林技術センター 資源利用課長) 基調講演者、講演者</p>
閉会挨拶	(16:50)	鹿島 潤 (森林総合研究所四国支所 産学官民連携推進調整監)

事前
申し込み
不要